

活動のはしら

- 1 青少年団体の指導育成及び組織化
- 2 文化・レクリエーション活動の推進
- 3 青少年育成組織の強化及び地域活動の推進
- 4 環境の整備及び浄化活動
- 5 青少年に関する相談及び愛護指導

つばさ

神奈川県青少年指導員だより

第22号

—2000. 3. 30—

発行 神奈川県青少年指導員
連絡協議会
印刷 株式会社 野毛印刷社

健やかに育てよう 学校・家庭・地域から

第三十二回神奈川県青少年指導員大会 新形式で開催

第三十二回神奈川県青少年指導員大会は平成十一年十一月七日、神奈川県立神奈川総合高等学校（多目的ホール）において「健やかに育てよう 学校・家庭・地域から」をテーマに、約五百名の参加者を迎え盛大に開催されました。

今回から大会は新形式となりました。参加した青少年指導員が情報交換や活動のあり方を研究協議することで相互理解と連携を深め、活動のより活発な展開を図ることを趣旨とし、また、各市町村の公共施設を利用して開催できるように、半日規模で参加人員を三百〜五百名にしました。

新形式による大会は、県協議会及び神奈川県との共催で開催されたものです。県協議会副会長から開会のことが発表され、最初の式典では、主催者として神奈川県県民部長、来賓として安斉県議会議長、勝又県議会議員、多くの方々の臨席の下、昨年よりも七名多い六十名の受賞者の方々に渡部会長から感謝状が授与されました。

基調講演

式典に続き、「野本三吉」のペンネームを持ち、神奈

川県青少年指導員の制度に精通している加藤彰彦横浜国立大学教授による「青少年指導員の今後の役割〜今、青少年指導員に求められるものは〜」と題したご講演がありました。一九六〇年代から今日に至るまでの社会変化を通し、現代の子どもが持っている考え方と望まれる青少年指導員のあり方を分かりやすく述べていただきました。

基調講演の中から（抜粋）

○ 子どもたちは、自分自身が同化できるような人生のモデル、つまりアイドルのような「カッコイイ」というところにいろいろ価値観を求めています。実際、目の前にそういう方が地域

にいれば、その方に心をひかれて、一緒に何かをやっていることとなるはず。ところが、子どもたちは、地域の中でそのようなチャンスになかなか出会えないのです。

○ ボランティアとしてお年寄りの世話をしたい、自分の知っている技術を誰かに教えたい、という方々と子どもたちをつなげて、

興味や関心を追求する生活力と仲間同士の協力の大切さを、子どもたちを含めた地域の方々が身につけられるように役割を担って活動するのが青少年指導員ということです。

○ 二十一世紀に向かって青少年指導員は、子どもたちだけに限るのではなく、地域の大人たちと青少年が交流を持てるようになります。地域の大人の意識変化なくしては、子どもたちの意識変化はないのです。

○ 異文化体験と自然体験は非常に大切です。小さなうちから子どもたちが「遊び」をやっていたら、青少年はそのとき得られた体験（感覚）を成年期につなげていきます。

活動発表・全体協議

川崎地区（宮前区）の出嶋里子さん、横三地区（逗子市）の角田進さん、県央地区（愛川町）の渡辺基さん、足柄上地区（南足柄市）の新高一文さん、以上四名の青少年指導員の方々から、それぞれの地域における活動事例発表が行われました。その後、講演を終えた加藤講師を進行・助言者に迎えて、参加者全員による全体協議が行われました。学校

との関わり方や、健全育成活動に多くの中・高校生を取り込むにはどうすればよいかと言った質問や意見が多く飛び交いました。また、事例発表者の中から、子どもたちをひきつけるようなインターネット等の情報機器の活用も重要と言った意見がありました。最後に今回の大会が行われる津久井地区選出の理事が、大会のお手伝いをしていたら、大会が神奈川県立神奈川総合高等学校の五人の生徒を紹介し、熱気と感激に包まれた中で大会は幕を閉じました。

受賞者名簿（平成11年度神奈川県青少年指導員表彰）

1 横 濱 市 区 寺 慶 太 郎	24 栄 区 岡 田 忠 男	45 湘 南 地 区 浅 倉 和 江
2 1 鶴 見 区 日 井 昭 之	25 泉 区 丸 山 秀 親	46 平 塚 市 市 藤 野 小 林
3 神 奈 川 区 白 井 瑛 之	26 瀬 谷 区 菅 原 金 栄	47 藤 沢 市 市 市 野 口 隆 夫
4 " " 区 田 辺 弘 美	27 " " 川 崎 市 市 土 屋 信 一	48 茅 ヶ 崎 市 市 市 津 濱 高 山
5 " " 区 久 津 正 次	28 川 崎 区 区 上 嶋 信 一	49 茅 ヶ 崎 市 市 市 野 口 隆 夫
6 " " 区 角 村 富 雄	29 幸 津 区 区 上 嶋 信 一	50 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
7 中 南 区 区 川 村 透 孝	30 高 津 区 区 上 嶋 信 一	51 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
8 南 港 区 区 堀 本 福 子	31 宮 前 区 区 上 嶋 信 一	52 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
9 港 南 区 区 堀 本 福 子	32 宮 前 区 区 上 嶋 信 一	53 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
10 保 土 谷 区 区 堀 本 福 子	33 麻 生 区 区 上 嶋 信 一	54 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
11 " " 区 区 堀 本 福 子	34 横 須 賀 市 市 市 野 口 隆 夫	55 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
12 " " 区 区 堀 本 福 子	35 横 須 賀 市 市 市 野 口 隆 夫	56 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
13 旭 区 区 堀 本 福 子	36 " " 市 市 野 口 隆 夫	57 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
14 " " 区 区 堀 本 福 子	37 逗 子 市 市 市 野 口 隆 夫	58 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
15 磯 子 区 区 堀 本 福 子	38 三 浦 市 市 市 野 口 隆 夫	59 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
16 磯 子 区 区 堀 本 福 子	39 三 浦 市 市 市 野 口 隆 夫	60 伊 勢 原 市 市 市 野 口 隆 夫
17 磯 子 区 区 堀 本 福 子	40 三 浦 市 市 市 野 口 隆 夫	
18 磯 子 区 区 堀 本 福 子	41 三 浦 市 市 市 野 口 隆 夫	
19 磯 子 区 区 堀 本 福 子	42 三 浦 市 市 市 野 口 隆 夫	
20 青 都 戸 区 区 堀 本 福 子	43 三 浦 市 市 市 野 口 隆 夫	
21 青 都 戸 区 区 堀 本 福 子	44 三 浦 市 市 市 野 口 隆 夫	
22 青 都 戸 区 区 堀 本 福 子		
23 青 都 戸 区 区 堀 本 福 子		

◆開催日時 平成十二年十月二十九日（日）午後一時〜四時

◆開催場所 相模湖交流センター
（中央本線・相模湖町駅より徒歩八分）
〒〇四三六八二一
六二二一

◆内容
事例発表（横浜、湘南、西湘、津久井地区）
全体協議、表彰式

第三十三回神奈川県青少年指導員大会について
大会実行委員会

青少年指導員として この2年間を振り返って

南足柄市青少年指導員

大森 敏江

『地域のおじさん、おばさんとして、青少年と関わっていく』初めて青少年指導員になった六年前、本市青指連協の会長のことばでした。指導員って何？で終わってしまっただけかもしれない平成八年度の末に、「21みなみあしがら子どもプラン」が策定され、また、三年程前より、ジュニアリーダー（中学二年生）が公募となり、市からの委託事業であるジュニアリーダー育成研修会やジュニアリーダーフォーアアップ研修の内容も充実してきました。特に、ジュニアリーダーフォーアアップ研修は、彼等の友人や保護者をも巻き込んだの活動へと発展させた学区が出てきたり、自作の紙芝居を持って幼稚園や施設を訪問して喜ばれ、自信をつけて青少年センターのクリスマス会に出張したりした班もありました。



女性指導部の活動も、子ども会中心から、入園前の幼児の親子を対象とした活動や、小学校のクラブ活動にフリーサポーターとして関わることができ、活動に広がりが出てきています。体験させ、納得させ、自信を持たせて次に発展させる。そこまでサポートしてやることで、指導員としての在り方が少しみえてきたような気がします。それと並行して、一緒に活動してくれる仲間を見つかけたり、バトンタッチをして広げていくことも必要となってきました。

今、深夜コンビニでたむろしたり、喫煙をしている子供たちが目立っており、そういう横を向いている子供たちと関わっていくことも、要求されています。しかし、根本には親の生き方やその子の育った環境などがあることから、時としてこちら側の気持ちも空回りしてしまいう場面もあります。自然の流れの中で、ほんの少し意識して活動してみると案外新しい発見があることもこの六年間の活動の中で学びました。

いずれにしても仲間たちに恵まれて活動できたことに感謝しています。

津久井町青少年指導員

加瀬 良二

青少年指導員の年間行事の大きな柱である、夏休みの中学生交流キャンプはこ

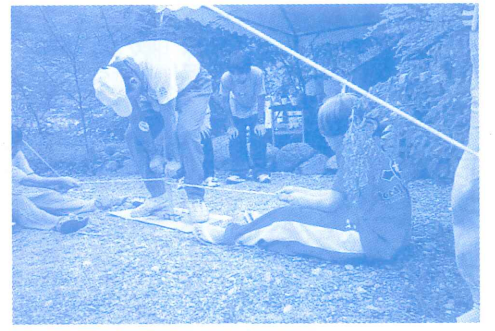
津久井の自然を活かして、道志川で行われている。いつもの事であるが、三、四月にそのあり方について真剣に討議しつつ、毎年少しずつ内容が工夫され続けられている。



キャンプでは幾つかのレクリエーションプログラムが組まれており、昨年度（平成十年度）は竹を使った工作を担当することになった。指導員と名前がつくからには少しは様になる物を作らなければならぬ。竹と

前年に自分でも作り、竹とんぼ、花瓶、ぶたなどを簡単な絵にして当日に備えた。指導員と参加者がほぼ一対一になり、それぞれ自分の作りたいものに挑戦した。普段鋸やナイフを使ったことが殆どないので怪我をしないか、そんな事を気にしていたが、ぎこちないものの何とか鋸や小刀、ドリルなど使いこなしていた。また、炊飯作業での火起こしや薪わりも、それまでいやいや作業していたメンバーも徐々に興味を持って参加した。

帰りがけ参加メンバーの一人から、「おじさん帰ったら手紙あげるよ」と声をかけられ、その時は半ばほんとかなとも思いつつ、心の中では楽しみにしていたところ、夏も終わりにきれいな絵葉書をもらった。「非常に楽しかった。皆な一生懸命やってくれたし、来年ももっと参加する」との文面で、我々の思いが伝わった。指導員として良かったなと感激した。女房も「お父さん一生懸命やったから」と言われた。これをきっかけに指導員として何ができるか、何をすべきか考えるようになり自分自身の行動も少しずつ変化していった。また一つ成長したと思っている。



宮前区向丘地区
青少年指導員会副会長
島田 茂

私が自治会の推薦を受け、川崎市の第十五期の青少年指導員となり、八年の月日が経ちました。当初は先輩の活動内容を覚え、実施するのが精一杯でしたが、次第にさまざまな思いがめぐり、反省の日々が続きました。

「継続は力なり」と言われますが、唯々年間事業の消化に追われ、なかなか周りに目を向けることが難しい状況です。活動の母体である地域自治会や地区の子ども会より諸問題の提起も増えていきます。「少子化」に対する行事の在り方や事業の「マンネリ化」等々、これらの問題提起に対して取り組む時間的な余裕がないと言っているのが現状です。先輩達の流れを継承しつつ、もっと前向きな事業にも取り組んでみたい、もっと青少年と触れ合う機会を持ちたいと思いは様々です。現役の個々の指導員が、創意と工夫をもちより、地域の子ども達が心から喜び、笑顔で参加できる行事を企画



し、実施しなくてはならないと思います。また、大きな事業を実施するには、準備に膨大な時間と労力を費やしてしまいます。私達の活動は、仕事や家事の合間の限られた時間しか出来ません。いかに効率よく準備するかが、最大の課題と痛切に感じました。

それには、やはり自治会をはじめ地域の皆様の協力が不可欠です。私達指導員と地域との密なる意思も疎通を図らなくてはと、新しい試みとして、平成十年度より広報誌を発行しました。この二年間で六回発行（年三回）し、かなりの反響がありました。まだまだ、試行錯誤の連続ですが、私達の努力の積み重ねが、やがて実を結ぶことを願いつつ次号の発行に向けて準備にはいっております。これからの課題としては、地域との密なる連携をとりつつ、青少年の「居場所づくり」を中心に、新しい企画を皆で考え、実行に移していきたいと思っております。

相模原市青少年指導員

連絡協議会

五十嵐 久代

自治会の役員決めの時、活動内容も分らないまま青少年指導員を引き受ける事になりました。

我が子も成人し、時間の余裕も出来て何か人の役に立ちたいと思いはじめていました。

相模原市の青少年指導員の委嘱を受け活動内容や地域での役割など、研修会で

知り何か大変な役を引き受けたのではと不安でした。私に何が出来るか分かりませんが、自分自身の成長するチャンスと捉え、積極的に活動に参加するようになりました。

私の住む大野台公民館区では緑も比較的多く自然環境にも恵まれ、近くには木もれびの森があります。小学校、中学校がそれぞれ二校あり、指導員六名中、新人四名でスタートしました。二年間「自然と地域のふれあいを大切に」子どもと一緒に遊ぼう！をテーマに活動してきました。

一年目、「野外体験教室」として、植物オリエンテering。「創作活動」で作った連風上げ、この二つを目的に立川市の昭和記念公園へ行きました。

子ども達二十二名が作った連風を班ごとにあげた後、約百個の連風にして秋晴れの中、大空高く上げました。子ども達の笑顔と歓声が響く一日でした。

二年目、本格「手打ちうどん」を行い、粉からこねたり、足で踏んだり、自分達で作った手打ちうどんを子ども達は味わっていました。

しそに食べていました。秋にペーパーグライダーづくりに挑戦し、自分達で作ったペーパーグライダーに各自が色をつけ名前を書き学校の校庭で飛ばしてみました。

様々な行事や活動の中で子どもたちの真剣な表情や態度、笑顔や歓声にふれ、子どものもつエネルギーを吸収し疲れも忙しさも忘れ元気をもらいう事が出来まし

た。また、市の催しの「桜まつり」や青少年健全育成協議会、広報活動と多岐にわたり参加しましたが、早いもので三月で二年が過ぎようとしています。

様々な行事活動をする中で今まで自分が知らなかった事を学び経験し視野も広がりました。先輩、仲間の指導員に助けられ自分の弱点を乗り越えることができ感謝しております。

青少年に関わる事件も少なくない昨今です。十年前に比べ生活が豊かになりましたが、忙しさの中で親子のふれあい、他人との関わりが希薄になっていく。地域の子ども達への「ひと声」を大人が掛け合って言ったらよいと思ひ、子ども達へのあいさつを続けていこうと思っております。

厚木市青少年指導員

緑ヶ丘地区

永田 敏雄

青少年指導員になり二年が過ぎました。指導員というものを何も知らずに就任となったわけですが、この二年間に私自身、たくさん学ぶことができました。

まず指導員となってジュニアリーダーの子供たちと関わりをもつようになりました。どの子供たちも、とてもしっかりと責任を持ってがんばっているという感じがしました。恥ずかしなから、そんな彼らの熱意に応えられるだけの働きが、自分にはできていないのだからかと反省せざるを得ませんでした。そして指導員の数ある活

動の中で、印象深いことといえばやはり、公民館祭りでしょう。お祭りでは林中学校ふれあい部のお手伝いで竹とんぼ、フランクフルトなどを作り、大成功で終えることが出来ました。普段の生活ではあまり機会に恵まれない、地域の大人と子供が協力する、という現代社会において少し忘れかけているような貴重な体験が出来ました。よく世間では「最近の若い子は……」などと子供たちを批評したりも致しますが、このような活動に関わってみると「そんな子ばかりではない、しっかりとした常識のある子供たちだっただけ育っているのだ」と実感しました。これからも、地域の大人と子供が関わりをもつためのパイプ役として、今以上に青少年指導員活動を充実させ、更に心の通った地域作りに役立ちたいと思ひます。

逗子市青少年指導員

圓谷 真理子

平成十年の四月、青少年指導員とは何をするのかもよくわからずに引き受けて、私の指導員としての活動が始まりました。

初めは月一回の定例会に出れば良いのかと思ひ、いたところ、年間の事業計画に基づき、さっそく五月の子供の日のつどいの実施計画の話合いが始まり、準備へとすすんで行く中で私は、先輩の指導員の方の後について、良く分からないうちに当日を迎え何とか一つの活動を、終わらせることができました。何期か青少指を経験され

ている方の行動力とはすごいものがあると、実感させられた一日でした。逗子市の青少指は二十五名と少人数ではありますが、PTA、子供会、ボーイスカウト、ガールスカウト、青少年育成推進の会、民生児童委員、スポーツ少年団など多分野から構成されています。

その中の一人として私は、この二年間自分なりにいろいろな活動に参加させていただけました。毎月一回行なわれる定例会の他、研修会などから本当にたくさん青少年についての情報や、現在起きている問題を知ることが出来ました。

しかし、その問題に対して我々がどのように対応していけば良いのかは、なかなか難しいことです。特に私たちが接している子供達は、わりと問題のない子供達が多く、本当に関わりを持たなければならぬ子供達とは、接点を持たないのが現状です。

二年間の青少指の活動の中で、私は実際にはたいしたことはしていないように思ひますが、少しでも子供達と多く接し、そして自分なりに、一人の母親、大人として子供達をまた違った角度から見たり考えたり出来たことは、良かったのではなかったかと思ひます。

青少指の二年間本当に活動は大変なことも多かった分、それなりに実りある二年間でもありました。

城山町青少年指導員

山下 利廣

私は、五十歳で城山町青

少年指導員になり、何をしなければならぬか、考えながら二年が過ぎてしまいました。

二十一世紀が目前に迫って、何を考え何をしなければならぬか。近年我が国の発展は、国民の物的生活を著しく向上させましたが、社会構造や経済事情の変化もあって、いじめ、不登校問題や、学級崩壊現象、加えて青少年層の凶暴化等、さらには家庭の躰や地域の指導低下もあって、人としての基本でもある他人を思いやる精神の欠如を感じます。教育の教の部分は学校、その部分は家庭、社会、それぞれ密接な連携によって、青少年健全育成のために、積極的に青少年の人間形成を手助けしていきたいと考えています。

その一端が、前年度の活動を検証し、少子化による社会的青少年の目線で見、考え、心で接し、現状や地域に合うように指導したいと思ひ、将来少子高齢化社会になり心身ともに健康な青年を地域ぐるみで自分たちの子どもだと思ひ、青少年の価値観を理解し自主性を持たせ、自己責任を持たせ、指導員が手助け出来るなにか、又一緒に活動出来るなにか模索しました。

1 放課後、部活動やお稽古事、パソコン、ゲーム等、また新しい音楽（コンピュータ音楽、ロック、フォークソング）で知り得た技能や知識の発表の場を設けるべく、自己責任において自主企画し、青少年指導員と検討する新しい音楽活動の場や、パソコン教室等によ

る青少年とのコミュニケーションを大事にする機会の提供等も計画する。

2 インターネット等による役場と青少年との情報交換、また役場との社会教育情報、ボランティア活動（海外ボランティアも含む）の推進、イベントの案内、活動報告、悩みごと相談、青少年の自主制作コーナーによるコンピュータ月間かわら版等の開設。

3 成人式等の式典は、成人になる青少年と各運営団体との理解ある打ち合わせを行って低コストにし、新成人が主体となり、自己責任のもとにおける自主開催に向けての手助け及び助言。

4 高齢者との共存共学は学校、地域において青少年教育上、必要であり、知識、経験、躰の役割をしてもらうためにも、高齢者は、重要な位置を占める。また老いも若きも地域社会の構成員であるとともに、生涯教育上の相互交流を担う役目をもつものである。

この四点について今後は是非実現していきたいと考えています。

最後に親の責任についても意見を言いました。物質の豊かさで子どもたちを育て過保護にした付けがまわり、見失ったものが多いように思われる。

また文化、道徳、見識等の格差があり、押しつけでなく見たり聞いたり、対話したり、お互いが理解し、夢のある地域社会を作りたい。問題提起してきたこれらの事に会議を重ね、教育委員会の理解と協力のもと

改善し、少しずつ青少年の目線で、何を子どもたちに発信したら良いかを考えたいと思ひます。

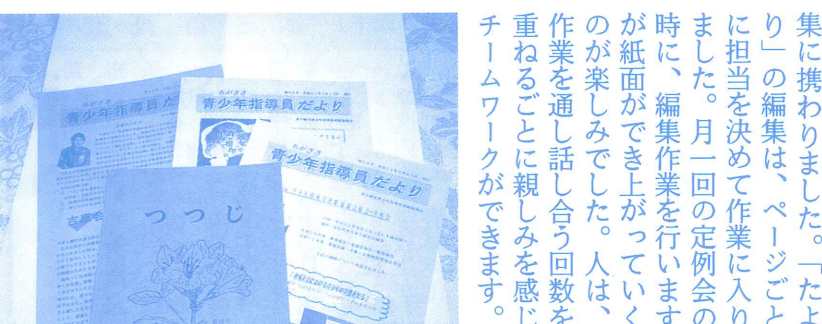
まだまだ勉強中です。いろいろな各団体、各方面からの情報を分析、検討し、地域社会の健全化を求めてがんばります。応援よろしく。

茅ヶ崎市青少年指導員

滝口 しげ子

茅ヶ崎市青少年指導員連絡協議会では、十七小学校区から五名ずつ選出され八十五名で活動しています。

私は、青少年指導員として六期、十二年間の活動をいろいろな立場で関わらせていただきました。特にこの二年間は、委員長として「青少年指導員だより」を二年一回発行と、「つつじ」二年間の、活動報告書の編集に携わりました。「たよりに担当を決めて作業に入りました。月一回の定例会の時に、編集作業を行います。紙面ができていくのが楽しみでした。人は、作業を通して話し合う回数を重ねることに親しみを感じチームワークができます。



そして任せてもらったことに責任を持つようになります。それらを成し遂げた時喜びがふれやがて自信となることでしょう。

青指を受けさせていたいただき、続けさせていたいただき、何事もできるからするのではなく、青指の研修や活動を通して多くの学びや人との出会いがありました。そして中学生の生の意見を聞き新鮮な気持ちになりました。

大和市青少年指導員

小倉 隆夫

青少年指導員の任期は一期二年。私は早いもので三期目が終わろうとしている。一期目は「右も左もわからず無我夢中で先輩の方々に付いて行くのが精一杯だった」そして二期目は、地区内の指導員が半数以上入れ替わり、事もあらうに地区長をやるはめになってしまった。新しい指導員に活動内容や役割を早く知ってもらうため、自分が先輩から教わったことを自分なりにアレンジをして地区内でオリエンテーションを行なった。和やかなムードの盛り立て役に励んだ二年間だった。そして三期目に入った今回は連絡協議会の副会長も合わせて仰せつかり、多忙な二年間だった。私の住んでいる大和市では青少年指導員を市内十二地区に

多忙な二年間だった。私の住んでいる大和市では青少年指導員を市内十二地区に

わけ、現在百二十名で構成されている。地区長は理事となり連絡協議会の役員として地域活動を積極的に援助するとともに指導員相互の連携を図る。



ながら、活動してきたように思います。

また、私自身も、すばらしい人達に、出会うこともできました。まず、地区での十人の仲間との出会い、部会での四十三人の仲間との出会い、協議会での百四十人の仲間との出会いでした。

最後に、私自身の体験を申し上げると指導員活動は「やらねばならぬ」仕方なくやる」のような考え方で活動しては何か価値は生れません。またそのような行動は相手側(子ども達)にも伝わってしまいその場の雰囲気は欠落してしまつて、脱皮して前向きな気持ちで取り組んで頂きたい。

藤沢市青少年指導員

高橋 進子

二年間を振り返りますと、地域の事業の中で、子ども達と出会い、一緒に楽しみ

げの話が聞こえてきました。楽しそうに話しながら帰って行く後ろ姿に、若者の清々しさを感じましたと同時に、新しい出会いがあった、新しい仲間ができた事をうれしく思いました。

座間市青少年指導員

福島 聖子

家の中から外へ出ること、すばらしい人達に出会ったり、仲間や友達ができることを、子ども達にも知ってほしいと、悲しい事件を聞くたびに思います。

時々、青少年指導員の活動の意義を考えることがあります。我々の活動は青少年の育成に直接的かつ有効的な影響を与えているのでしょうか。もちろん子供

の育成の効果は一朝一夕に現われるものではありませんから短絡的な判断は謹まなければなりません。この活動は諸々の代償を払っても実施する意義があるのかどうかを検討してみました。ただ役所が作成した青写真に協力しているだけというのではないでしょう。子供たちは青少年指導員の提供する活動をどう受けとめているのでしょうか。この二年間私はこのような疑問を持ちながら活動してきました。

私たち役員は専従職員や専門家ではないので、時間や能力に限界がありますか

ら、子供たち自身にありは子供たちを取り巻く環境に十分に対応することはできません。もしかしたら、青少年指導員という組織がなくても子供たちは現在と同じように育っていくかもしれませぬ。だとするとこの組織の存在意義をどこに見いだせばいいのでしょうか。

青少年指導員の活動に参加して実感したことは、子供に直接関わる時間より役員に向けた研修や会議などに費やす時間の方がはるかに多いということです。つまり地域の成人住民に対する社会教育としての機能が浮かび上がってきます。これはPTAをはじめとする他の役員にも共通する事情で、良識ある市民としてある程度共通の認識を共有し、ある一定の理想とする社会の構築に向けての理解を有し、活動する市民の育成という役割を果たしているのではないのでしょうか。

また役員どうしが活動を通してコミュニケーションを深めていくことにより、高齢者介護や防災など多様な機能を持つ地域コミュニティの更なる希薄化を少しでも食い止める効果があると考えられます。したがって、青少年指導員の意義とは、青少年の健全育成という主目的で活動をしていきますが、良識ある市民として一定の理想の社会の構築に向けて地域の運営に携わることと言えるでしょう。ただし良識とは、理想の社会とはについては十分に協議がなされるべきですが。

かもめ通信

(平成十二年五月〜十二月)の主な事業予定を紹介)

横浜市

- 第十九回横浜市少年洋上セミナー(八月八日(火)〜十二日(土))
- 第十九回横浜市少年洋上セミナー運営委員として乗船
- 横浜市中堅指導者研修会(九月三十日(土))

川崎市

- 全中原中学生卓球大会(七月〜八月の日曜日)
- 市立今井中学校体育館第三十五回向丘地区親子運動会(八月二十七日)
- 聖マリアンナ医科大学大学グラウンド
- あさおウォークラリー(九月三日)
- あさお区民運動会(十月一日)
- あさお区民まつり(十月八日)
- 麻生区役所周辺
- 幸区民祭(十月十四日〜十五日)
- 幸区役所周辺
- 中原区青少年吹奏楽コンサート(十一月三日)
- エポックなかはら大ホール
- みやまえ芸術祭(十一月十一日〜十二日)
- 宮前区役所周辺
- 社会環境健全化キャンペーン(十一月中旬)
- 御幸ウォークラリー大会(十一月二十三日)
- 多摩川河川敷

座間市

- 西中学校区青少年フェスティバル(十月七日(土)〜九日(月))
- 九時〜十二時
- 於西中学校
- ・学区内の小中学校生が参加して、スポーツゲーム等をして遊ぶ。

・種目：フットサル、スリーオンスリ、ストラックアウト

○座間中学校区青年フェスティバル(十一月十八日(土)〜二十日(月))

- 座間中学校
- 東中学校区青少年フェスティバル(十二月十六日(土)〜十八日(月))
- 九時〜十二時
- 於 東中学校
- ・学区内の中学校生が参加して、清掃美化活動とスポーツゲーム

城山町

- 第十三回城山町ウォークラリー大会(五月二十一日(日)、二十八日(日)(予備日))
- 城山町内
- 南足柄市
- ファミリースマーカーンプ(七月二十九日〜三十日)
- 青少年センターまつり(十月二十二日)
- ジュニアリーダーフォロアアップ研修(五月〜十二月(通年))

藤沢市

- 藤沢市子どもフェスティバル(五月五日)
- 全体会(五月二十五日)
- 子ども会リーダー会議(五月十三日)
- 子ども会リーダー会議(六月三日)
- 子どもソフトボール大会(六月十一日)
- 子ども会リーダー会議(六月二十四日)
- 子ども会リーダー会議(七月十五日)
- ビッグサマーフェスティバル(七月二十二日)
- 子ども会リーダー会議(十月二十八日)
- 子どもサッカー大会(十一月十二日)
- 子ども会リーダー会議(十一月十六日)

編集後記

早いもので一期二年間の任期の最後となりました。私達五名で「つばさ」の編集を手がけて来ました。

その間多くの方々より子ども達の健全育成の願いを前面に出しながら活躍いただいている姿を寄稿して下さいました。沢山のものを紙面に組入れ、四苦八苦しながらの編集でした。

皆さんには意にそぐわなかった部分もあったかと思われまふ。これからますます紙面である事を願いながら皆さんに深く感謝を申し上げます。

(久保田利房)

「つばさ」第十六期編集委員

- ・稲垣 錦司 (横浜市)
- ・東田 乗治 (川崎市)
- ・久保田 利房 (県央地区)
- ・佐藤 啓二 (足柄上地区)
- ・鈴木 康弘 (県協議会)